



桃太郎（21）

すると、草むらの中から、「ワン、ワン。」と声をかけながら、犬が一匹きかけて来ました。

桃太郎がふり返ると、犬はていねいに、おじぎをして、「桃太郎さん、桃太郎さん、どちらへおいでになります。」

とたずねました。

「鬼が島へ、鬼せいはつに行くのだ。」



桃太郎（22）

「お腰に下げたものは、何でござ
います。」

^{にっぽん}
「日本一のきびだんごさ。」

「一つ下ください、お供しましよ
う。」

「よし、よし、やるから、ついて
来い。」

犬はきびだんごを一つもらって、
桃太郎のあとから、ついて行きま
した。



桃太郎（23）

山を下りてしばらく行くと、こんどは森の中にはいりました。すると木の上から、「キャッ、キャッ。」とさけびながら、猿が一匹き、かけ下りて来ました。

桃太郎がふり返ると、猿はていねいに、おじぎをして、「桃太郎さん、桃太郎さん、どちらへおいでになります。」とたずねました。



桃太郎（24）

「鬼が島へ、鬼せいばつに行くのだ。」

「お腰に下げたものは、何でございます。」

「日本一のきびだんごさ。」

「一つ下ください、お供しましょう。」

「よし、よし、やるから、ついて来い。」

猿もきびだんごを一つもらって、



桃太郎（25）

あとから、ついて行きました。

山を下りて、森をぬけて、こんどはひろい野原へ出ました。すると空の上で、「ケン、ケン。」と鳴く声かして、きじが一羽とんで来ました。

つづく

